横浜みどりアップ計画市民推進会議　第56回広報・見える化部会　会議録	
日　時	令和６年１月30日（火）10時00分～12時00分
開 催 場 所	市庁舎18階共用会議室さくら14
出 席 者	奥井委員（web）、高田部会長、国吉委員、高橋委員、村松委員、望月委員（五十音 順）
欠 席 者	
開 催 形 態	公開（傍聴１人）
議　題	１　広報事業の評価・提案について ２　その他
議　事	（事務局）　本日は、委員の皆さまにはご多忙のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、横浜みどりアップ計画市民推進会議　第 56 回広報・見える化部会を開催いたします。 まず、本日の会議について報告いたします。本会議は、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第５条第２項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっています。委員定数６名のところ、６名のご出席であるため、会が成立することを報告いたします。 また、本会議は、同要綱第８条により公開となっており、会議室内に傍聴席と記者席を設けています。なお、本日の会議録には発言者氏名を記載し、公開いたしますのでご了承ください。会議録の公開前に、委員の皆さまには確認をお願いします。さらに、本会議中に写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌等へ掲載することも、併せてご了承ください。 次に、傍聴される皆さまへお願いします。本会議中の発言はご遠慮ください。その他の注意事項は、受付でお渡しした「横浜みどりアップ計画市民推進会議を傍聴される皆さまへ」と書かれた紙をご確認ください。 それでは、お手元の配布資料について確認いたします。 ＜資料確認＞ 事前送付させていただきました ・次第 ・資料１横浜みどりアップ計画市民推進会議 2023 年度報告書（案）【抜粋】 また、フラットファイルに、１月 19 日の本会で使用した 2023 年 11 月末時点実績説明用スライド、2023 年 11 月末時点の事業目標と進捗状況、及びこれまでの単年度の目標や進捗状況をとじています。 また、本日は事業を所管するみどりアップ推進課が出席しています。事務局からは以上です。 それでは、今後の議事進行は高田部会長にお願いします。高田部会長、よろしくお願いいたします。

	（高田部会長）　皆さま、こんにちは。本日もよろしくお願いいたします。 　奥井委員が急きょ、ご家族がインフルエンザにかかり、会場にはお越しいただけないということで残念だったのですが、Web 会議にてご参加いただけることになりました。一日も早いご快復をお祈りいたします。 　前回の本会議では、これまでの５年間の成果について説明がありました。本会議の後、皆さまには新たにお気付きの点やお考えがあろうかと思います。今日はそのことについて話し合いますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。 　それから、『Yokohama みどりアップ Action』第９号の原稿が完成したとのことです。いろいろとご苦労をお掛けしたと思いますが、感謝申し上げます。 　それでは、事務局からご説明をお願します。 　　（事務局説明） （高田部会長）　ありがとうございました。 　それでは、議論に移ります。効果的な広報の展開について、委員の皆さまからご意見、ご質問がありましたらお願いします。本会議でも詳しいご説明がありましたが、広報について改めて説明していただきました。 　今日はまとめという位置付けですから、お一人ずつお伺いしたいと思います。それでは、高橋委員から順番にお願いします。 （高橋委員）　実際に私たちの目に触れるみどりアップ計画の広報活動もいろいろありますが、その中には市営バスに貼られているマグネットシートがあります。あのマグネットシートは、資源循環局と比べ、みどりアップ計画のものは小さくて目立ちにくいですね。更新することがあれば、もっと目に付きやすいようなものにしたらいいのではないかと思います。ただし、印刷はきちんとされていて、色あせせず残っていますので、そこは評価できると思います。 　蛇足かもしれないのですが、たまたま箱根駅伝のテレビ中継を見ていたとき、権太坂の歩道橋に「GREEN×EXPO 2027」の横断幕が設置されていて、それがあまり目立たないなと感じました。目立ち過ぎると交通法規上の問題があるのかもしれませんが、権太坂はよくテレビに映る場所でもあるため、横断幕を張るのであれば、交通の障害にならない程度にもう少し目立つ色にしたほうがよいと思いました。 　前はみどりアップの計画があまり知られていなかったこともあり、公園内の球根ミックス花壇などにみどりアップ計画との関係が分かるようなプレートを設置したらよいのではないかという話がありました。今は、近くの公園でも球根ミックス花壇づくりを行っているのですが、その公園にもみどりアップ計画のプレートが設置されて、それを見れば、公園での活動がみどりアップ計画の一環だということが分かります。そのため、今後も、みどりアップ計画ができるだけ、市民の目に触れるような手段を考えてほしいと思います。

	総括の評価・提案としてまとめるとなると、このような個別の案件は難しいかもしれませんが。 ただ、今後やってほしいと考えていることがあります。それは、「名木古木」に関することです。公表の可能な名木・古木は今後、「横浜 GO GREEN」の X（旧 Twitter）で特集などをされるとよいのではないかと思います。それを見て、「ここに名木、古木があるんだな」ということで見に行ったり、写真を撮ったりする人が増えるかもしれません。名木古木の維持管理にもみどり税が使われているわけですから、公園のプレートと同じく、少しでも多く、みどり税の使われ方を市民に伝えるような情報発信をしてほしいと思いました。 今年度の秋の「里山ガーデンフェスタ」には、私もある土曜日に行ってきました。そこでは、みどりアップ計画の PR やアンケートの実施など、いろいろな活動をされていました。また、そこに関心がある市民は、リーフレットなどの資料をもらうことができます。そういうイベント等もうまく活用しながら、引き続き、情報発信をお願います。 評価・提案の中に個別のものを入れることはなかなか難しいと思いますが、以上のようなことを実行すると、また少し、みどりアップ計画の PR になると思った次第です。 （高田部会長）　ありがとうございます。 （事務局）　何点か、お答えしてもよろしいですか。 （高田部会長）　はい。 （事務局）　今、お話のあった市営バスのマグネットシートは、親しみが持てると同時に目立つように、大きさ等を工夫しながら作成しました。しかしお話を聞き、そういった露出方法については確かに、より工夫をこらす必要があると感じました。 また、みどりアップ計画では、地域緑のまちづくり事業や球根ミックス花壇づくりなど、いろいろな形の取組を行っています。このような取組はみどりアップ計画にとっていい PR にもなりますし、実際に多くの方に参加していただいています。したがって、公園に設置するプレートについては、こういった現地での取組を市民の皆さまに伝えられるように、デザイン等も工夫していくことが大事だと、我々も思ったところです。 そして、今、名木古木に関する大変素晴らしいアイデアを頂戴しました。「横浜 GO GREEN」についてはご覧いただいているとおり、今年度はどちらかというと、担当者も含めて現地に行って取材をし、その状況をお知らせするといった現地突撃系の情報発信をしました。名木古木は、こんな木が街の中にあるのだということを実感してもらう上で非常に大事な取組であるため、その取組を盛り上げるアイデアとして参考にさせていただきたいなと思った次第です。 それから、私どもはイベントを広報の手段として利用していますが、今年は、イベントで物品の配布と同時にアンケート調査を実施しました。イベントにいらっしゃった方がどの

	程度みどりアップ計画のことを認識しているのかという調査です。その結果を見ると、みどりアップ計画に関連するイベントであることを知らなかったという回答も少なからずありました。今後のみどりアップ計画の周知方法を工夫する上でも、イベント等で直接、来訪者の声をお聴きすることは本当に大事なことだと分かりました。以上が、補足的な回答です。 （高田部会長）　先ほどのマグネットシートのお話がありましたが、私たちが活動している国道１号線に面した場所にある「広報板」にも、「みどりアップ計画」と書かれたプレートが貼ってありました。しかし、老朽化して剥がれてしまったので、新しいものを頂戴したいと思っています。前にもお願いしたことがあるのですが、そういうものを頂戴することはできますか。 （事務局）　在庫があるかを確認します。 （高田部会長）　私たちだけではなくて、地域緑のまちづくり事業に関連するところにも、同じような問題があるように思います。全部はなかなか難しいでしょうけれども、できる限り、老朽化したところを更新してもらえると、みどりアップ計画による活動が続いているのだということも伝えられます。ぜひ、よろしくお願いいたします。 （事務局）　ありがとうございます。確かに、みどりアップ計画も 15 年間続けてきて、これから４期目に入るわけですから、やはり 15 年も経つと、最初は新しかったものが、老朽化、劣化して見栄えが悪くなっている場合もあることは、私も現地を拝見する中で実感しました。そのため、高田部会長が活動されている箇所も含め、うまく更新できるような手立てを我々としても考えていきたいと思います。 （高田部会長）　それでは、村松委員、お願いします。 （村松委員）　はい。最初の 37 ページの「広報よこはま等の広報誌への記事掲載」のところですが、『エコチル』、『こどもタウンニュース』は民間ですか。 （事務局）　はい。 （村松委員）　そして、『かんきょう横浜』は市の広報誌ですか。 （事務局）　市のものではなく、横浜市環境保全協議会が発行しているものです。協議会の会報誌である「かんきょう横浜」に私どもが記事掲載をお願いしたというものです。 （村松委員）　そうですか。それでは、『エコチル』はどのようなものですか。 （事務局）　『エコチル』は完全に民間企業発行の子ども向けの新聞で、

		いわゆる、環境に関する記事を掲載しています。恐らく、広告も含まれていると思われますが、環境活動、環境問題に関することを子どもたちに向けて広報していくものです。今回は『エコチル』に「森に出かけてみよう」というテーマで記事を掲載してもらいました。
	（村松委員）	そうですか。そうすると、ここには、横浜市の広報誌、協議会の会報誌、また、民間企業の新聞や広報誌が混在しているわけですね。この目標のところの「広報誌」は、市発行の公的なものと私は思っていました。この部分は少し煩雑な感じがするため、広報誌については、「マスコミ」、「団体誌」など、分けて記述したほうがいいと思います。
	（事務局）	分かりました。その部分は、分かりやすくなるように工夫します。
	（村松委員）	具体的に書かなくてもよいと思うのですが、分類できるような形でお願いします。 先ほど、高橋委員もイベントでの PR についてお話しされましたが、配布するグッズはその場限りのものではなく、ずっと使うため、ある程度の PR 効果が見込めると思います。みどりアップ計画関連のグッズをいただくことがたまにあるのですが、その販売はしていないのですか。
	（事務局）	販売はしていません。
	（村松委員）	グッズの配布に関しては、予算の関係で記述できないのかもしれませんが、どのようなグッズがあるのか少し PR してもよいのではないかと思います。 それから、その上にある、広報の「各種メディアを活用した PR」のところに、「交通広告が６件」とあります。これは、６月、10 月といったように掲出時期が６回なのか、施設が６か所なのか、少し分かりにくいと思います。 私も、「みどりアップ計画の広告が電車の中にありましたね」というお声を複数の方から聞きましたので、非常に効果的だったと思います。そのため、できれば、広告掲出期間も教えてほしいですね。
	（事務局）	期間は、春と秋で週数が若干違いますが、それぞれ１か月程度です。
	（村松委員）	そうすると、電車等に１か月間広告を掲出した場合、それを１件と数えるのですか。
	（事務局）	そうです。今回で言うと、JR 横浜線、市営地下鉄と市営バスで流したのですが、それぞれを１件とカウントしています。10 月にも同じく、交通広告を掲出したのですが、そのときは JR 桜木町駅、市営地下鉄と相鉄線で掲出し、それぞれを１件とカウントとし、それらの合計で６件となっています。

	（村松委員）　場所でカウントするのですね。 それから、私のパソコンで、インターネットのトップ画面に突然、葉っぴーちゃんが出てきたことがあるのですが、それは意図せずに出てくるのですか。 （高橋委員）　それはみどりアップ計画についてよく調べられているからかもしれませんね。 （村松委員）　そうかもしれないです。 後ろの「評価・提案」についても、今、申し上げてよろしいのですか。 （高田部会長）　はい。 （村松委員）　それから、市民推進会議で作っている『Yokohama みどりアップ Action』について何も記述がないようです。『Yokohama みどりアップ Action』は市民推進会議の広報誌であり、みどりアップ計画そのものの広報媒体とは異なることは分かります。しかし、『Yokohama みどりアップ Action』を使ってみどりアップ計画を広報したことを掲載してもよいのではないのかと思います。例えば、『Yokohama みどりアップ Action』をどこかに何部、配置した、これを使ったイベントを実施したなどといったことを記述するということです。 （事務局）　今の評価の部分に記述する場合、『Yokohama みどりアップ Action』の記事にある取組について記述するのか、あるいは、『Yokohama みどりアップ Action』自体が広報用のツールであることを記述するのか、どうしましょうか。 （村松委員）　『Yokohama みどりアップ Action』はみどりアップ計画に関する広報誌であり、みどりアップ計画に関連する活動をしている人たちを紹介し、市民を活動に誘致することを目的にしています。したがって、評価では、市民推進会議で『Yokohama みどりアップ Action』を作ったということについて記述してほしいと思います。 （事務局）　では、例えば、「市民委員の方々が広報・見える化部会で編集している『Yokohama みどりアップ Action』などをうまく活用」したことによって周知が進んだことを、「それらも取組につながっていると考えます」といったように記述する形でよろしいですか。 （村松委員）　はい。 （国吉委員）　私も同じ意見を言おうと思っていました。広報・見える化部会で製作する広報誌の『Yokohama みどりアップ Action』という名前は、「行動する」という意味であり、既にみどりアップ計画のさまざまな活動に参加しておられる方などの取材のため、私たちもいろいろなところに行きました。やは

り、『Yokohama みどりアップ Action』を広報の一つとして、ぜひ、入れてほしいと思います。

（事務局）　では、４ポツ目が「実際に自分が活動し、楽しむことは」ということで、まさに活動の部分に触れた評価・提案です。したがって、ここに、『Yokohama みどりアップ Action』を入れ、例えば、「我々が発行している『Yokohama みどりアップ Action』についても、広報につながっていると考えています。引き続き、実際に～」といった方向で検討したいと思います。

（事務局）　少し補足してもよろしいですか。

（高田部会長）　どうぞ。

（事務局）　冒頭の広報誌の使い分けに関するご意見がありました。民間も含めて広報したほうが、効果が高いと判断し、我々から売り込みを掛けた媒体もあれば、逆に、先方からお声掛けのあった媒体もあります。子ども向けの媒体はやはり、非常に効果が高いと考えて掲載しているところです。しかし、少し分かりにくいということであれば、媒体を分類して、記述を分かりやすくする工夫をしたいと思います。

また、グッズに対するお話もいただきました。グッズも配って終わりということではなく、お話にあったように、みどりアップ計画の成果に気付いてもらえるように使い続けてもらえる物、アンケートへの回答率向上のためのお礼の品など、啓発系の活動中に配布するような使い方をしているところです。これもいろいろと試行錯誤をしながら、効果的なグッズを探しているところですが、引き続き、使用したいと考えています。

そして、今、お話に出てきた「横浜みどりアップ葉っぴー」の着ぐるみはお子さんの人気も大変高く、イベント等で登場すると、場が華やかになるといった効果があると実感しました。着ぐるみの中はかなり暑くなるらしく、長時間の稼働ができないという問題もありますが、効果的な PR のために、着ぐるみ等もうまく活用したいと思っているところです。

それから、広告、特に電車への動画掲出のお話を頂戴しました。これも、本年度は力を入れて行っている取組です。みどりアップ計画に接点の多い路線を選択して、広告を掲出しました。露出度という点では、やはり、電車の中では非常に多くの方が見ておられるといった印象でした。手前みそですが、面白い取組ができたのではないかと自負しております。なお、報告書の中に少し分かりにくい表現があったため、その部分は改めます。

（高田部会長）　では、国吉委員お願いします。

（国吉委員）　今年、私は市営地下鉄を利用する機会がかなり多かったのですが、立っていると自動的に上を見ます。横浜市には通勤世代、働く世代の市民が非常に多いのですが、今回の広告動画はその世代へ向けたアピールになり、「次の休みにはこん

		なところへ行ってみようかな」というアクションにつながる効果的な広告・広報だったと思います。 　また、緑に関するイベントの PR ですが、これからもいろいろなイベントが横浜市で行われます。５月には久しぶりに横浜フラワー＆ガーデンフェスティバルが開催されますが、前回は３日間だったところが４日間になるとのことです。少し暑いかもしれませんが、そこに葉っぴーちゃんも登場してほしいと思います。せっかく横浜市内で行われるイベントであり、また、横浜市外からもたくさんの方がお越しになるので、みどりアップ計画を広報するチャンスです。ぜひ、こういう機会を利用してください。 　一つお尋ねしますが、葉っぴーちゃんの服は空の柄ですか。
	（事務局）	青空だと聞いています。
	（国吉委員）	青空だったのですね。子どもたちの目に付きやすく、そして、人気のキャラクターですから、ぜひ、いろんなところに登場してほしいと思います。 　また、広報では主に、里山や地域、一部の公園を取り上げて紹介してきました。しかし、私たちそれぞれが暮らすところにも身近な公園が幾つもあります。うちの近くの公園は、「みかん公園」と呼ばれていて、みかんの木がたくさん植わっています。みかんの葉にはあまりよろしくないかもしれないのですが、時期になると数えきれないほどのアゲハチョウが飛んでいたりします。その他にも虫がいて、みかんは花が咲き、実がなるという、大変魅力的な公園です。ここと同じく、魅力的で特徴的な公園は幾つもあると思います。 　今までは、イベントを開催する公園や、家族みんなで利用する公園を広報で取り上げることが多かったと思います。しかし、実際には毎日、かなりの人数の子どもたちが自分たちだけで遊んでいて、夏場は夕方遅くまでずっと子どもたちの声が聞こえます。そういう公園も、もう少しクローズアップしてもよいのではないかという気がします。 　そのような公園に注目すると、安心・安全面、木の剪定、雑草の管理、花壇の整備、ごみの問題など、地域の課題解決にもつなげることができます。また、日中働いている方が非常に多いと思いますが、その方々は、日頃、子どもたちがどこで遊んでいるかをご存じないと思います。昔の子どもたちもそうだったのでしょうが、子どもは大人が驚くような場所で遊んだりしますから、子どもが遊んでいても安心できるような公園づくりといったところも、少しクローズアップしてもよいのではないかという印象を受けました。以上です。
	（事務局）	ありがとうございます。 　今、広告動画について国吉委員がご指摘されたことは、まさに私どもがこの広告で狙った点です。働く世代が頻繁に目にするものが電車内の動画広告と考えていますので、そういった狙いを持って実施したものです。できるだけ効果が高まるように工夫しながら、広報をうまく進めていきたいと考え

		ています。 　また、最後の地域の公園にも関係する防犯については、みどりアップ計画の中で直接的な取組をしているわけではありません。先ほど、高橋委員からも、花壇づくりの際にはみどりアップ計画のプレート設置をというお話がありましたが、花壇づくりのためには誰かが花壇に花や球根を植えています。植え付けた後は、水やりや草むしりなど、花壇の世話をしに始終、誰かが公園に行くことになります。そういった形で大人の目、地域の目のある公園は非常に防犯性が高まるというお話もいただいています。この点についは、公園を管轄する部署とも連携し、相乗効果を生むような取組について今後、検討していこうと考えています。
	（高田部会長）	ありがとうございます。私からもひとつよろしいでしょうか。 　以前の会議の中で、アンケートの結果、若い世代、特に 20 代、30 代と小さなお子さんたちの認知度がやや低いため、今後、そこをターゲットに広報をしていくというお話がありました。私も中高生の認知度が少し気になっていますが、中高生向けに広報の取組をされているかどうかを教えてください。 　それから、私の所属する「鶴見『みどりのルート１』をつくる会」の活動に参加していただいている方が、みどり税の話もこの活動に参加して初めて分かったというようなことをおっしゃっていました。その方のお子さんは恐らく中高生と思われるのですが、その親世代についても、意外にみどりアップ計画にたいする認知度が低いように思います。今後、中高生の親世代にもアピールできれば、みどりアップ計画の認知度がさらに高まるのではないかと思いました。そこで、中高生に向けて広報する際、どんなことにポイントを置くのかについて伺いしたいと思います。
	（事務局）	正直なところ、中学生、高校生をターゲットにした広報はまだ実施できていません。これが、最初のご質問への回答です。ご指摘を受けて、まさに今、ハッと胸を突かれたような気持ちです。 　現在、小学生に対してイベント、副読本などによってみどりアップ計画の認知を高める取組を行っていますが、その後、成長して中高生となった子どもたちへ向けたアピールをしておりませんでした。 　ただし、大学生ぐらいの年齢になってくると、森づくり活動のボランティアやインターンシップ等へ参加するようになります。したがって、現在は、小学生と大学生に向けた取組は行われてる状態です。しかし、その間をつなぐためにどうするか、我々としては今後、中高生に向けた取組をしっかりと考えてまいります。
	（高田部会長）	実は、「鶴見『みどりのルート１』をつくる会」には、私立学校さんも会員として参加しており、昨年の 12 月から今年１月にかけて中学１年生が、「『ルート１』の活動を通して

	環境や地域を考える」という総合学習を実施しました。このときの総合学習では、環境と地域を考えるというテーマだったのですが、国道１号線には、横浜市の歴史的建造物に指定され、2019 年には土木学会賞を受賞した、「響橋」という橋があります。そこで、響橋の歴史的な背景、地形学的な点も考慮した建造方法なども含めて学習する総合学習計画となったようです。 関口課長のおっしゃるとおり、中高生の学校の授業にみどりアップ計画に関する学習を入れていくことは非常に難しいと思います。しかし、この事例のように何とか工夫をして、どこかにみどりアップ計画の取組を入れてほしいと考えます。今後の課題というよりも、期待を込めて申し上げます。 （事務局）　分かりました。ありがとうございます。 学習との連携については幾つかの方法があると思いますので、我々も、その辺りを勉強していきたいと思います。ありがとうございます。 （高橋委員）　私からもよろしいでしょうか。 （高田部会長）　はい。 （高橋委員）　高田さんは、「緑をつくる」施策を検討する部会の担当なので、これから会議があると思いますから、ぜひとも提案をしてください。 公園では、花壇の植え替えをするときに、球根ミックス花壇などの場合は小学生に協力してもらうこともできると思います。公園愛護会の人たちは大体、自治会・町内会にも絡んでいて、自治会・町内会は地域の小学校や中学校と関係を持ち、よく運動会などの学校行事にも呼ばれています。したがって、地域で子どもたちを見守るという観点では、既にそういった連携やコミュニケーションを取れているのです。 みどりアップ計画の取組の中でも、このような形で学校へ働きかけるとよいのではないでしょうか。 また、人生記念樹を入学・卒業の際に学校に提供するのも、みどりアップ計画を知ってもらうために効果的だと思います。学校の中には十分な敷地がないところもありますが、そういう学校は近隣の公園に記念樹を植える、あるいは、小学生や中学生の総合学習の中で球根ミックス花壇づくり等の公園に関わる作業に協力してもらってはいかがでしょうか。そういったことを通じて巻き込んでいくほうが、みどりアップの事業の理解がより深まると思います。 自治会・町内会、また、公立の小中学校などを巻き込んで、情操教育などにも効果がある、あるいは、さまざまな教科の中でも使えるといった話になれば参加してくれる学校も増えると思いますので、ぜひ、緑部会で提案してください。 （高田部会長）　ありがとうございます。 奥井委員、ご意見をお願いします。

	（奥井委員）	皆さん、おはようございます。本日、急きょリモートで参加することになりました。皆さんとお会いできる残り少ない機会がこのようになってしまい、大変残念ですが、どうかご理解ください。 40ページの「施策についての評価・提案」を拝見して、大変いい具合にうまくまとまっていると感じました。広報に関しては、SNS、広報誌などの紙媒体と、いろいろな情報発信の手段があると思います。一方、市民と対面できる場として、例えば、マルシェや里山ガーデンフェスタ、GREEN×EXPO 2027等があります。そのような場を通じて、みどりアップ計画を知ってもらうために、広報誌やグッズ配布などの活動も今後、できればよいと思います。 また、この場を借りて、少しだけ、ご挨拶をさせていただきます。今年の３月で任期が終わりますので、私が委員になって間もなく丸５年になります。市民推進会議の委員となり、私自身も横浜の緑のこと、みどり税のこと等について深く知ることができて大変勉強になりました。本当にありがとうございました。今後、私のような市民がたくさん増えることを期待しております。残り少ない期間となりましたすが、皆さま、どうぞ引き続きよろしくお願いします。 恐らく、ここまでの流れとかみ合わない部分もあったかと思いますが、私からのコメントは以上です。よろしくお願いします。
	（事務局）	ありがとうございます。イベント等はやはり、実際に来ていただいた方が「これもみどりアップだったのか」と知ることができる機会で、直接、みどりアップ計画を広報できるため、これについては引き続き進めていこうと思っています。 それから、委員に向けたご挨拶を頂戴しましてありがとうございました。委員の皆さまからのたくさんのご意見によって、我々もいろいろなことを前に進めることができたと思っています。心から感謝申し上げます。以上です。
	（高田部会長）	ありがとうございました。 40ページに「施策についての評価・提案」として５点、記載されていますが、これらについて、何かご意見がありましたらお願いします。いかがですか。
	（高橋委員）	この５年間の評価・提案ということですが、５年間のうち３年間はコロナの関係で人が密集するようなイベントやボランティア活動などができませんでした。そういったコロナ禍で、みどりアップ推進課として広報活動を行う際に工夫したところを教えてください。そして、制約のある中でも実行したことをきちんとここに記載したほうがよいと思います。
	（事務局）	ありがとうございます。コロナ禍の頃は、イベントも開催されず、人が集まること自体が不可能でしたから、情報発信が非常に難しかったと思います。 その中で印象に残っていることは、里山ガーデンです。里山ガーデンに花を整え終わったところで外出禁止になり、イ

		ベントができなくなってしまいました。そこでドローンを飛ばして空中撮影をし、その映像をYouTube等のSNSで発信しました。ステイホーム中の市民の皆さまに少しでも楽しんでいただけるように取組を工夫しました。その取組を通じて、それまでの広報とは少し異なる切り口で広報ができたと考えています。怪我の功名といった形ですが、それがコロナのときの広報の工夫の一つです。
	（高橋委員）	そのような取り組みについても、担当者のコメントでいいので、一言記述したほうがいいと思います。
	（事務局）	分かりました。
	（高田部会長）	地域緑のまちづくり事業に関しては、Web会議を通じて地域の方たちと計画について進められたと聞いています。行政の仕組みからすると、新しいことを始めるには時間がかかると思うのですが、横浜市はWeb会議の導入が早かったと思います。その辺りについてはいかがですか。
	（事務局）	そうですね。地域緑のまちづくり事業のWeb会議も恐らく、担当者の苦肉の策だったのでないかと思います。しかし、そのおかげで市民の参加機会が各段に広がったことは、高田部会長のおっしゃるように評価すべき点であろうと思います。 現地に行って顔を合わせることにも価値がありますが、離れた場所にいても参加できるし、楽しむことができるようになりましたので、いろいろな参加手段を提供できたことも、我々にとって新たな取組であったと思います。また、その取組の担当者は初めてのことでもあり、さまざまな苦労をしました。そのため、委員の皆さまからお褒めのお言葉を頂戴し、大変ありがたく思っております。
	（村松委員）	市民農園は屋外ですから、私たちの「かなっぱ畑の会」はコロナ禍でもそれほど休まずに農作業を続けました。この間に、参加する人が増え、かえって盛んになったような面があります。
	（事務局）	おっしゃるとおりですね。市民の森も散策される方がとても増えたというお話を聞いていますので、そういった屋外の活動の良さが見直されたことは重要な視点だと思います。
	（高橋委員）	それはコロナ禍でも取組を続けた成果ですね。例えば、市民の森についても、以前から地域に向けた発信や広報をしてきたことが功を奏したのではないかと思います。集まることが難しい時期に、「市民の森がそばにあるんだから行ってみよう」というような話になって、訪れる人が増えたのではないでしょうか。だから、広報も少なからず貢献していると考えています。 柱１から柱３には、コロナ禍の苦しい時期の対応が記述されていますので、広報もやはり、何かしら入れておいたほういいと思いました。

	（事務局）　分かりました。 （国吉委員）　ここに入れてよいかどうかは分かりませんが、コロナ禍があったからこそ、里山への来訪者、公園や農園の利用者が増えたことも一言、評価として入れてもよいと感じました。 あと、もう一点よろしいですか。 （高田部会長）　どうぞ。 （国吉委員）　２番目のところで、「子ども向けの広報誌で」というところがあり、最後にまた、「子ども向けの広報誌などがより充実」と書いてあります。この辺りの文章が重複しているようですので、少し整理した方がよいと思います。 （事務局）　分かりました。 （国吉委員）　また、４番目のところに、先ほどの、「『Yokohama みどりアップ Action』も利用して」というような文言が入るのではないかと考えます。 （高田部会長）　ありがとうございました。 先ほどの事務局からの説明で、市民の森に関心を持つ市民から問い合わせがあったというお話がありました。それについては、具体的な件数も記述したほうが、説得力もあるし、客観的な評価につながると思います。正確な件数を把握することは難しいかもしれませんが、その辺りについてはいかがですか。 （事務局）　実際にお電話だけでも十数件あったのですが、実は、さまざまな窓口にお問い合わせを頂戴したこともあり、全件数まで把握できていない状況です。数字データをどのように表現するかについては、今後、我々も検討しなければならないと考えています。 なお、私どもに直接頂戴した、市民の森に関する十数件のお電話の中に、「全然知らなかったけれども、行ってみたいと思った」といったお声がありました。広報活動をする際、市民の森を全くご存じない方にもきちんと有益な情報を伝えることが大切だということをあらためて認識しました。これは定性的な情報ではあるのですが、担当者の声として記述したいと考えています。 （高田部会長）　その件についてもう少し教えてください。お電話をされた方は、何を見て電話したのか、また、どのようなことを知らなかったのか、そして、問い合わせをして知ったことは何だったのかということです。 （事務局）　『広報よこはま』に掲載したみどりアップ計画の地図をご覧になって、自分の家の近くにも市民の森があり、また、横浜市域にこれほどたくさんの市民の森があることを初めて

	知ったという方のお声が一番印象に残っています。 （高田部会長）　そういうことはやっぱり大事ですね。 　この「評価・提案」について、他にご意見はありますか。この内容で大丈夫ですか。 （事務局）　国吉委員からご指摘のあった、「評価・提案」の「子ども」が重複している箇所について、事務局から提案します。先ほど、皆さまからのご意見の中に、中高生をターゲットにしてほしいというものがありました。そこで、下の２ポツ目の「また」以降で、例えば、「中高生などに向けての」といったような、少し踏み込む形で記載してはどうでしょうか。委員からのご提案もありましたので、そのような修正をしたいと考えています。 （高田部会長）　よろしくお願いします。 　市民の森の特集をした『Yokohama みどりアップ Action』は、コロナ禍で出掛けていき、皆さんといろいろと検討して作りました。市民の森への関心がだんだん広がっていくことはうれしいですね。 　私も、自宅から数十分で行けるところに市民の森があることは知っていたのですが、行ったことがなかったのです。しかし、この市民推進会議をきっかけに、そこに行ってみました。そして、その仕組み等を具体的に知り、また、市民の森で活動されている団体は、任意団体としてフリーに活動されていて、一般市民の参画を歓迎するといったように、自然体で動いておられることが分かりました。市民の森の役割はとても大きいにもかかわらず、市民にはまだまだ知られていないことをつくづく実感しました。市民の森は本当に横浜市民の財産だと思うので、さらに広報等推し進めてほしいと思います。 　望月先生、一言、お願いします。 （望月委員）　38 ページの一番下のところに、「市民推進会議の広報・企画としては、広報誌『Yokohama みどりアップ Action』第９号を発行」とあり、かっこ書きで、「詳細は参照」と書いてあります。しかし、この書き方だと、「第９号」だけしか発行していないように見えるし、皆さんが一生懸命努力されて発行されたわけですから、「第 1 号から第９号を発行」に訂正したほうがよいと思います。よろしいですか。 （事務局）　掲載の仕方を検討します。 （望月委員）　事務局が最初にお話しされたように、15 年という長い期間を経て、みどりアップ計画の広報活動も大変盛んになってきました。そして、「そろそろ更新を」という声も出るくらいに、あちこちでみどりアップ計画のプレートを見掛けるようにもなってきました。そういう意味では、本当に広報活動も進化してきていると言えますし、行政の皆さんの努力も大変大きいと思います。

		いわゆる、公的な媒体だけではなく、一般紙などが記事にしてくれるようになったのは、横浜市の取組が浸透した結果だと思います。しかし、私がこの市民推進会議に参加していて最も感じたのは、この広報・見える化部会の委員の皆さんの熱心さと、『Yokohama みどりアップ Action』の作成です。私は、本当に素晴らしいと思っています。 私は研究者として、長く、地方公共団体の研究をしていますが、このように市民自ら、広報誌をきちんと作ることは恐らく、他に例のないことだと思います。企画から作成、監修にまで参加され、しかも、それが第１号から第９号までの毎号です。当然、作成過程は行政の皆さんの下支えがあってのことですが、正直に申しまして、この取組自体が本当にすごいことなのです。 「みどりアップ推進課」といった、緑に関連する業務担当課が存在するのは、恐らく、日本全国を探しても横浜市だけでしょう。そういう意味でも、横浜市の取組は非常に先進的で、素晴らしい取組です。横浜市民である私たちは、もちろん、誇っていますが、行政の皆さんも、「自分たちのところにはみどりアップ推進課があるんだ」と、もっと誇るべきだと思います。 GREEN×EXPO が 2027 年に開催されると思うのですが、そこまでつながっていくということは、本当に瞠目に値すると思います。 そして、私が本当に感心するのは、広報・見える化部会に参加してくださった皆さんの努力と成果です。当初の市民推進会議広報誌の第１号の原稿案は、『広報よこはま』のみどりアップ計画版といった形で計画の内容と目標・実績数字がつらつらと書かれた、説明文だらけの誌面でした。それを見た進士座長は、「こんな市の広報版の縮小版を市民推進会議で作るとは何事だ」、「これは見直さなきゃ駄目だ」とおっしゃったのを、私は今でも覚えています。 その結果、今のような『Yokohama みどりアップ Action』になったわけです。もう全く別のものです。写真が多用されていて、各記事も委員の皆さんが書いています。これを成し遂げたことは、本当に尊敬に値します。それが私の偽らざる感想です。 繰り返しになりますが、私はずっとこのみどりアップ計画を近くで見てきましたが、日本全国を見渡しても、緑に対する取組をここまでしているところはどこにもないと思うので、もっと誇ったほうがよいと思います。その成果が少しずつ出てきました。それらの成果を広報活動という視点から評価することは大変いいことだと思います。以上が、私の感想です。 それから、事務局には申し訳ないのですが、委員の皆さん、要望はどんどん伝えたほうがよいと思います。
	（高橋委員）	では、意見をお伝えします。市のホームページには 18 区へのリンクがあり、そのリンク先は各区独自のウェブページです。そこに市民の森などの情報を載せている区もあるのですが、それはまだ少数です。区役所にはみどりアップ計画の

		担当部署がないため、各区の広報に差があるようです。 　各区役所のウェブページ上で各区にある樹林地、市民の森、公園や名木・古木などを載せてもらえるように働き掛けをお願いします。そうすれば、市民の目に触れる機会も増え、市民の森や公園を訪れるきっかけにもなると思われます。 　さらに、区によっては、スポーツ推進委員がウォーキングのイベントを開催したり、また、青少年指導員は小学校へ出向き、稲作体験などを行ったりしているようです。これらはみどりアップ計画と相性がいいと思われます。区役所の職員にもみどりアップ計画に関する情報を頭に入れてもらえれば、区民への情報提供がもっとスムーズにできるのではないかと思っております。 　何とかうまくサポートして、各区で特徴のあるみどりアップ計画の情報が見られるようになればよいと考えます。そうなれば、市役所のみどりアップ計画のページからリンクすることもできるようになり、市民はさらに、緑の情報へのアクセスが容易になると思います。 　これを実現するには、きっと市役所のほうから区役所へ働き掛けなければならないと思いますが、そういったことも少し検討してください。
	（事務局）	ありがとうございます。先ほどの市民の森しかり、名木・古木しかりで、身近なところに何があるかをきちんと広報し、緑に関する体験への参加を促進することは、みどりアップ計画への市民の理解を高めるには非常に重要だと、我々も考えています。 　我々は、区役所の事業を応援するような取組を行っており、区で何か緑の取組を実施したときには広報してもらえるように依頼しています。そしてその際には、区で実施しているみどりアップ計画の取組についても PR してもらえように依頼しています。今のお話を聞いて、さらに力強く、区への働き掛けをしていきたいと思いました。ありがとうございます。
	（高田部会長）	高橋さんの意見に私も大賛成です。私はいつも、区との連携の話をしていますが、おっしゃるとおり、区役所は市民にとって最も身近な場所です。 　そして、区でみどりアップの発信をしようとしても、ゼロから作ることはきっと難しいと思います。そこで、ある程度の情報のひな形をみどりアップ推進課から提供し、そこに区独自の緑の情報を含めた形で情報発信できるようになればよいと思います。すなわち、市役所と区役所が連携して作り上げる、区版のみどりアップ計画ホームページになれば理想的だと考えます。 　そうすると、区民の皆さんからも緑に関する情報が寄せられるようになり、区役所の方たちも、区民へお知らせしたい情報や計画が多数、出てくるかもしれません。この市役所と区役所との連携をきっかけに、よりよい流れができればよいと考えています。

	（高橋委員）　そうですね。ハイキングコースなどの情報を入れるとよいかもしれないですね。 （高田部会長）　はい。 （高橋委員）　私は以前、港南区で青少年指導員をやっておりました。そして、港南区全体から区民を集めて、ウォーキングのイベントなどをやっていました。その際、名木の植えられた場所へ行き、「ここにこんな有名な木があります」と教えられ、「こんなものがあるんだ」と感心した経験があります。このように、青少年指導員の活動にも緑の情報を組み込むことができます。 歩数計を管理する事業がありますが、それとタイアップすれば、二つの市民の森をつないだコースを歩いたり、市民がここに行ってみようと思うきっかけを作れるかもしれません。 区役所とうまく連携できるように検討してください。 （事務局）　ありがとうございます。４期目のみどりアップ計画で大切にしなければならないことは、これまでの３期 15 年でつくり上げてきたものをきちんとまた活用していくことです。まさに今、おっしゃった、健康や楽しみのために使っていく部分であると考えます。オール市役所で取り組めるように、区との強固な連携に向け、働き掛けをしていきたいと思います。大変貴重なご意見をありがとうございます。 （高田部会長）　先ほど、望月先生からもいろいろとありがたいお言葉を頂戴しました。 （望月委員）　いいえ、とんでもないです。私の率直な感想です。 （高田部会長）　私だけではなく、恐らく、他の委員の皆さんもそうだったと思うのですが、最初の頃はこの市民推進会議で何をするのかということが具体的には分かりませんでした。その後、事務局の方たちからいろいろなご説明を受けた上で、自分たちが関わったことのない緑の活動について評価や提言をすることから始まりました。それを繰り返していくうちに、さまざまな仕組みが分かってきて、さらに、別の活動に関心を持つようになり、自分が提言した活動の場に実際に出向き、その体験を文章で表現して記事にするといった流れをたどってきました。 これだけ自由に意見が言わせてもらえて、それがきちんと反映されるような仕組みを作っていただいていることを、横浜市民として本当に誇りに思います。 一般市民がいくら声を出しても、その意見を聴いてくれる行政は恐らく、あまりないと思います。１、２回の会合ならば、話をする機会があるかもしれませんが、一つのテーマについて継続して、細かいことまで言い続けて、その成果を５年間にわたって確認し続けることができる仕組みを作ってくださったこと自体、市民として本当に誇りに思えることだ

		と思います。 　そういう意味でも、私はこの会に出て、本当によかったと感じていますし、その思いを自分の活動のエネルギーとして、今後、さらに発展させていきたいと思っています。皆さんもきっと、そう思われているのではないかと拝察します。 　委員の皆さんはそれぞれに、三つの柱の非常に深いところで活動をされています。私は以前、農については全く知識がなく、縁遠いことだと思っていたのですが、この会議に参加して、農は本当に身近なものであり、さまざまな活動とも深く関係しているものだということを理解できました。今度は、それを市民にも分かってもらえるように、できる限り伝えていきたいと思います。 　今日の議題は、「施策についての評価・提案」ですが、内容について言い足りないところはありますか。
	（村松委員）	では、今の続きで申し上げます。 　本当に委員の皆さまは素晴らしく、そうそうたるメンバーでした。こういうメンバーが各期に５人、３期合計で 15 人いるわけです。任期が終了して、「これで終わり」になってしまうのは、みどりアップ計画にとって惜しい気がします。具体的にどうしたらよいのかは分からないのですが、アドバイザリーグループ、市民推進会議の公募市民委員の OB 会のようなものがあればよいのではないかと思います。 　例えば、高田さんに講演を頼みたいときは、遠慮なくお声を掛けてもらい、私たちもその講演を聴きに行くなど、何かの機会にお互いの活動を知ることができればよいと思います。
	（高田部会長）	そうですね。
	（村松委員）	私たちの前に 10 人の公募市民委員がおられますが、皆さん集まって話す機会はなかったのではないのでしょうか。しかし、本当に素晴らしいメンバーばかりなので、刺激になるような、そして、またヒントがもらえるような、そういった機会が継続できればよいと思っています。 　それから、もう一つ、提案があります。市民推進会議の公募市民委員は５人で､農部会を担当しているのは私１人です。広報・見える化部会の中でも農について話すことは多く、そうすると、農に関することが私１人の意見になってしまい、偏っているのではないかと心配になることもありました。そのため、広報・見える化部会ではなるべく、各分野の公募市民委員を２人ずつにしてほしいと思います。それが難しい場合、他の部会の委員が出席できるようにして、各分野の委員が２名以上という形にしてもらいたいと考えています。
	（高田部会長）	では、大体、この辺でまとめてよろしいですか。 それでは、事務局からお願いします。
	（事務局）	皆さま、「評価・提案」をありがとうございました。本日の皆さまのご意見を要約します。まず、「評価・提案につい

	て」の２ポツ目、「子ども」、「子ども」と重複してる部分は、「中高生などに向けて」とし、ターゲットを絞るような形で修正したいと思います。 ４ポツ目は、『Yokohama みどりアップ Action』に言及したうえで、「実際の活動を体験することが大事」という流れになるように変更します。 また、「講演、マルシェ、イベントなどの場をうまく活用して」という意見もどこかに反映できるように検討します。 また、コロナの部分にも、皆さまから本当にいろいろなご意見がありました。事務局で調整、検討し、担当者コメントか評価・提案に入れさせていただきたいと思います。 最後に、40 ページの「評価・提案」が修正され、それに伴い、19 ページの概要も変更することになります。このまとめについても、我々が修正したものを基に、まとめを再度作るという形で作業したいと思います。 修正箇所の確認は部会長にお願いしてもよろしいですか。 （高田部会長）　はい。 （事務局）　では、そのように進めたいと思います。 それでは、事務局からの連絡事項を申し上げます。本日、皆さまから頂戴したご意見等に基づき修正し、高田部会長にご確認をお願いした後、３月に予定している本会に向けて準備を進めます。 また、前半でご説明した委員コメント、部会長コメントを頂戴したいと考えていますが、本会の報告書案までに間に合うように、後日、皆さんに依頼したいと思いますので、よろしくお願いいたします。 なお、第 41 回の本会議で、皆さまにも再度、報告書案のご確認をお願いします。まだ年度途中のため、実績はまとまり次第、後ほど値を入れる形になります。そのため、今回はこれまでと同じく、トレンド値を使って５か年を評価します。2024 年度中に実績をまとめ、報告書発行となります。 また、『Yokohama みどりアップ Action』について、先日、皆さまにメールをお送りしました。取材にご協力いただき、またたくさんのご意見をありがとうございました。最終号ということで、観音開きで作成してきた記事がようやくまとまりました。今回は「第９号」、最後の『Yokohama みどりアップ Action』として、送付したデータのとおり、印刷等を進めたいと考えています。３月の本会前までに、皆さまのお手元に印刷したものをお配りできるよう、今、準備を進めていますので、よろしくお願いいたします。 事務局からの連絡事項は以上です。 （事務局）　本日は貴重なご意見を本当にどうもありがとうございました。また、我々、みどり政策を担当する者に対して、大変心強いエールを頂戴したと思います。横浜市会の議決を経て、次の５年間もみどりアップ計画は継続となりましたので、本日頂戴したご意見等を踏まえ、力強く進めていきたいと思っております。

	本日の議事は以上です。これで横浜みどりアップ計画市民推進会議第 56 回広報・見える化部会を終了いたします。本日は誠にどうもありがとうございました。
資　料 ・ 特記事項	次第 資料１　横浜みどりアップ計画市民推進会議 2023年度報告書（案）【抜粋】